1 はじめに

子供たちの身近な自然体験の場づくりを目指した「水辺の楽校プロジェクト」が全国約200箇所（36都道府県）で実施されている。

岐阜県恵那郡川上村（図1参照）を流れる壁沢川においても、平成12年度より運営協議会が設置され、自然観察会の開催、活動プランづくり等が行われており、今後実施される総合学習の中でも重要な位置付けとして考えられている。

本報告では、人口規模が小さい地域での「水辺の楽校プロジェクト」のあり方について検討を行った。

2 壁沢川「水辺の楽校プロジェクト」の概要

川上村は、岐阜県の東端に位置し、長野県南木曽町に接している人口1,017人の農山村である。図2は、中部圏域における水辺の楽校実施市町村（人口5万人以下）の現況である。これより川上村は、人口が最も少ないが15才未満の人口割合が20%を超え、水辺の楽校プロジェクトの対象人口割合が高い地域であると考えられ、したがって壁沢川「水辺の楽校プロジェクト」は村全体の中心的なプロジェクトとして位置付けられる。

壁沢川は、川上村の中央を貫流する一級河川川上川の支流であり、流域面積1,000km²、流路長約3.5km、平均河床勾配1/7である。地形は急傾斜であり、脆弱な地質でもあることから、過去多くの土砂災害が発生し、古くから砂防・治山対策が実施され、現在砂防堤築2基、床面工事約350mが整備されている。また、中・下流域に市街化をはじめ川上小中学校や村の地区会堂があり、今後も砂防施設を整備し、地域の活性化、自然体験の場として充実させなければならない領域である。

そこで、壁沢川流域の整備について広く質問を重ね、壁沢川流域固有の特性を活用し、子供たちの水辺の関わりを示した壁沢川「水辺の楽校プロジェクト」を策定している。（図3参照）
３ 課題とその対応

水辺の楽校プロジェクトは、渓流整備（水辺づくりⅠ）と活動プラン（水辺づくりⅡ）からなるが、ここでは壁沢川で特徴的な活動プラン（水辺づくりⅡ）の課題とその対応について述べる。

3.1 活動プランの内容

・ 生き物環境観察会：壁沢川の環境は地域で創り、地域で育てるという意識を高めるために、地域の専門家等が中心になって、整備間わきの工事前と工事後の水性生物等の環境観察会を行う。
・ 砂防の学習会：砂防事業や役割や意義、環境配慮の方法などを、地域や砂防ボランティア等の支援により、現地見学会や勉強会を行う。
・ 川づくりの実践：砂防工事に参加し、自らの手で川を創造することにより、「私たちの川」という意識を高めるため、現地に残る樹木や石の選別等を、工事関係者の指導のもと行う。

3.2 課題とその対応

活動プランを実施していくにあたり考えられる課題は、以下のとおりである。

・ 人口規模が小さいため、活動プランに打たれる方々が限定され、特定の職員や住民に作業が集中することが考えられる。
・ また、学校や他の関係機関の年間行事が決まっており、村全体でみると活動内容と行事が重なることが考えられる。

これらの課題に対し、持続的な水辺づくりを行うためには、次の対策が考えられる。

① 役割分担の明確化（表1参照）

限られた人数の中で実施するため、各組織の役割分担を明確にする必要がある。
② 村外の人材活用

砂防ボランティアをはじめ、環境団体などの村外のボランティアを活用する必要がある。
③ 実施工程の調整

学校、PTA、地域、村などの年間行事との調整を図った実施計画を策定する必要がある。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表 1 役割分担表</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>組 織</td>
</tr>
<tr>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>　　　　　　</td>
</tr>
<tr>
<td>小中学校</td>
</tr>
<tr>
<td>運営協議会</td>
</tr>
<tr>
<td>役 場</td>
</tr>
<tr>
<td>教育委員会</td>
</tr>
<tr>
<td>PTA・親</td>
</tr>
<tr>
<td>村内子供会・住民</td>
</tr>
<tr>
<td>高齢者・老人クラブ</td>
</tr>
<tr>
<td>自然愛護の会川上支部</td>
</tr>
<tr>
<td>建設工事関係者</td>
</tr>
<tr>
<td>村外（ボランティア）</td>
</tr>
<tr>
<td>岐阜県</td>
</tr>
<tr>
<td>砂防ボランティア</td>
</tr>
</tbody>
</table>

4 おわりに

平成14年度から、渓流整備の工事が開始され、運営協議会全体の活動が実施される。